

中世研究 第12号

中世と近世のあいだ——14世紀におけるスコラ学と神秘思想

上智大学中世思想研究所編

知泉書館刊 2007年

---



---

【収録論文】

## 第1部 宗教・神秘思想

ダンテと哲学——『饗宴』と『神曲』を中心として 岩倉具忠

ルルスの思想と近代 R・ロペス・シロニス

フライベルクのディートリヒの知性論 K・リーゼンフーバー

マイスター・エックハルトの思想——神の荒野と一者神論 田島照久

ハインリヒ・ゾイゼとドイツ神秘思潮——マルデブルクのメルティルトからテ  
ルステーゲンへ 神谷完

ザクセンのルドルフスの霊性とその近代への影響 須沢かおり

リュースブルクにおける二面性 植田兼義

## 第2部 スコラ学・自然学思想

ガンのヘンリクスとフォンテーヌのゴドフロワの思想 加藤雅人

ドゥンス・スコトゥスにおける真理認識の基礎づけ 八木雄二

十四世紀のスコトゥス学派の思想——偽カムプザルのリカルドゥスの代示  
(スポジチオ)論と個体化の理論 渋谷克美

オッカムにおける形象不要論 渡部菊郎

アダム・デ・ヴォデハムの思想 稲垣良典

ジョン・ウィクリフの思想 城戸毅

十四世紀の運動論——リチャード・スワインズヘッドの質の運動 三浦  
伸夫

十四世紀の論理学——現代論理学とどう違っているのか

中世後期の視覚理論の形成 中村治

第三部 東方キリスト教思想

十四世紀ビザンツの哲学的・神学的状況——ヘシュカズムを中心に 久松英二

十四・十五世紀西欧の学問へのビザンツの影響 J・フィルハウス

---